

わたしの好きな一曲 思い出の一曲



さまざまな場面で、常にかたわらに存在する音楽は、私たちの生活に欠かせないものになっています。そこで、今回は、おすすめの数曲や、思い出の曲など『好きな一曲』を幅広い世代の方々に教えていただきました。

小向 新一朗さん

私の好きな一曲はSHISHAMOさんの『明日も』です。毎日頑張る人のための応援ソングとして親しまれ、ストリートな歌詞が人気を博しています。この一曲から、自分の弱さを正直に認めつつ、前へ進むとうとする強い意志のようなものを感じました。生きていく全ての人が、大なり小なり日々戦い、もがいたり、心が折れそうになっています。そんな中でも頑張る前に進んでいるし、進まなければいけない、頭の中では分かっている。この一曲の中で歌詞にして歌ってくれていることで、すっと入ってくるものがあります。この曲は、頑張っている誰かを応援すること、頑張れる自分があることを的確に教えてくれる素晴らしい一曲です。



谷合 昭彦さん

私の思い出に残る歌は民謡の『花笠音頭』です。民謡というと、ここ最近では運動会でソーラン節を団体行動種目として踊るようになり大変耳馴染みのある曲として、小学生でも口ずさめるメロディになっていると思います。私が小学三年生の頃、父の習い事であった民謡教室に一緒に行くようになり、日本各地の民謡に触れることが出来ました。六年生の時、日頃の練習の成果を発表する機会として、文化ホールの舞台で『花笠音頭』を歌ったのです。上手に歌えたか記憶が定かでないのですが、浴衣に化粧を施した記念写真を山形県酒田市に住む伯父伯母に見せて、とても喜んでもらった思い出があります。この歌を耳にすると、若かりし頃の父や伯父伯母を思い出すのです。



飯島 徹さん

『ビッグブリッチの死闘』
「ファイナルファンタジー5」
というゲームで流れる名曲。
大いなる敵との遭遇、巨大な橋の壮大さとバトルの疾走感を感じさせる。敵ながらも憎めない相手への敬意や尊敬、互いに護るべきものを感じ、曲と物語が合わり、記憶に残り続ける一場面となっている。
私の世代は、「ゲームは悪者」とされてきたが、二〇二〇東京オリンピックの開会式で流れてきた曲は、ゲーム音楽であった。私が「悪者」ながら感じてきたワクワク感や感動は、国を代表する文化であると証明された瞬間であった。
同世代でゲーム音楽の思い出を語り合い、親子でゲームの話で盛り上がる。ゲームの付き合い方も悪くない時代になってきました。



高野 敏行さん

一九六三年（昭和38年）頃、日本は高度成長時代で沢山の人が集団就職で地方から東京へ移動した時代です。その頃、私も就職し入社式は三百人位でした。その中で三分の二は東北生まれの新社員で、ここの東北弁で職場配属された時、会話をするのが大変だった事を思い出します。私の配属先は職人さんの技術職場でしたので、技術を覚えるために怒られ、どなられた時代ですが、社内旅行、忘年会になると必ずお開きになる前に全員で歌った曲が、井沢八郎さんの『あゝ上野駅』でした。今でもこの歌を聞くと、よき友を思い出します。

平塚 桃嘉さん

私の好きな曲は合唱曲の『あなたにありがとう』です。この曲は、小二の時に学校で知りました。今は合唱団のみんなとソプラノとアルトに分かれて歌っています。ゆっくりのテンポでやさしく語りかけていて、聞いていて心が温まります。また、ピアノのメロディがとてもきれいで、ゆったりとした気持ちになります。皆さんの感謝のメッセージが入っているこの歌詞は、みんながいてくれたから今の自分があるということを感じさせてくれます。そう思えるのは一番幸せなことだと感じます。そばにいてくれる人、ありがとうという感謝の気持ちをこめて、これからも歌っていききたいです。

大澤 敦子さん

リスト作曲
ラ・カンパネラ
もう20年近く前のことになりましたが、長女に誘われてイングリッドフジコヘミング氏の演奏会に行ったことがあります。その時に購入したCD『フジ子・ヘミングの奇蹟』リスト&ショパン名曲集の一曲目が、ラ・カンパネラでした。もの悲しい感じで始まり、徐々に大きなうねりのように盛り上がっていくこの曲を、休みの朝によく聴きました。今日は休みだという解放感に浸っていた気がします。今はリタイアして気楽な毎日ですが、先日久しぶりに聞くとその頃の気持ちを思い出しました。疲れを癒やし、励まし、背中を押してくれたのだと思えました。

